

しのぶ草



（隔月発行）

発行：宮崎市教育委員会文化財課

宮崎市きよたけ歴史館

所在地：宮崎市清武町加納甲3378-1

TEL 0985-84-0234 FAX 0985-84-2634

＜息軒先生の偉大なる足跡を尋ねて＞

館長就任早々ではありますが、上京の機会があり、是非とも息軒先生の偉大な足跡を辿りたいと考え、斯道文庫並びに東領家小学校に連絡を取らせていただきました。

斯道文庫は慶応大学構内にあるネオゴシック様式の立派な建物の一部で、そこに安井文庫6,000冊が大切に保管されていました。ご多用中でしたが、担当にご案内いただきました。



慶応大学 斯道文庫

次に、息軒先生が幕末から明治初頭の混乱を避けるために一時疎開された埼玉県川口市の東領家へ。小学校には校長、教頭はもとより川口市教委の担当者も2名お見えで、恐縮しました。息軒資料室とも言うべき「ふるさと室」等を見学した後、疎開をお世話いただいた高橋家のご自宅に案内されました。そこでご当主から家宝である「瓦全」の書や「北潜日抄」の原本を拝見させていただきました。

次に息軒先生が実際に9か月間居住された「息焉舎」に案内されてご当主とお会いし、旧宅を拝見させていただき、感慨もひとしおでした。川口市には息軒先生の確かな足跡が残され、その精神が学校教育にしっかりと息づいているのを感じました。

昌平覺跡（湯島聖堂）でも名刺を差し上げたところ、篤いおもてなしを受け、息軒先生の功績が高く評価されているのを感じました。千駄木の養源寺にある息軒先生の墓碑等も手厚く管理がなされていました。養源寺では住職はもとより、近くにある森鷗外記念室のふるさと探訪のメンバーとも遭遇し、運命を感じました。



養源寺息軒先生墓碑

以下、佐代さんが祀られている東禅寺や三計塾跡（海嶽楼）を尋ねましたが、没後130年以上を経過した今でも、宮崎市清武町の産んだ大儒息軒先生の偉大なる足跡は確かに埼玉県川口市に、そして日本の首都に息づいているのを感じた今回の探訪の旅でした。（文責：川口）

＜清武郷の隠れた史跡 第1回＞

「中野地区の寺院跡」①

今回から、新たな連載「清武郷の隠れた史跡」を開始します。そもそも「清武郷」の範囲を皆さんはご存知でしょうか？これは、現在の清武町域ではなく、江戸時代の飢肥藩の行政単位です。北は大淀川河口の赤江地区から、南は青島地区、西は清武町・田野町まで、かなり広い範囲を含んでいます。

今回は、当館が立地します中野地区の寺院跡を紹介します。中野地区には、江戸時代、清武郷の行政を担う地頭所（清武会所）が置かれ、その周辺に藩士たちが居住していました。このため、この地区には玉石垣や武家門が一部残り、武家屋敷街のイメージが強いのですが、明治初頭の廃仏毀釈までは、多くの寺院も点在していました。

当館の北西にあったのが、「玄松院」という寺院です。このお寺は幕末までには衰退していたようで、天保年間(1830～43)までは虚空蔵堂があったと、平部嶺南著『日向地誌』に記されています。現在は、十数基の古石塔が残り、そのうち一つは、「玄松院開山の碑」として市の史跡に指定されています。この塔身には、「前永平当院開山慈峯大和尚 慶長六年辛丑七月七日」と刻まれてあり、慶長6年(1601)には、この寺が開かれていたことがわかります。



当館を東に進んで、地頭所の東側にあったのが「蓮徳寺」です。これは日蓮宗富士門流の寺院で、現存する墓地には、応仁元年(1467)に建立された3基の五輪塔があり、日蓮上人や、富士門流の基礎を築いた日目上人、日郷上人の名があります。これ以外にも、清武地頭らの五輪塔や板碑が多く現存しており、「蓮徳寺墓碑群」として市の史跡に指定されています。



（文責：新名）

📎 講座のご案内 📎

- ◆きよたけ歴史講座③ 講師：長友禎治氏
日時：7月12日（土） 10時～11時30分
- ◆きよたけ歴史講座④ 講師：当館職員
日時：8月9日（土） 10時～11時30分

- ◇上井覚兼日記を読もう② 講師：当館職員
日時：6月28日（土） 13時30分～15時
- ◇上井覚兼日記を読もう③ 講師：当館職員
日時：7月26日（土） 13時30分～15時
- ◇上井覚兼日記を読もう④ 講師：当館職員
日時：8月23日（土） 13時30分～15時

🌸 お気軽にご参加ください 🌸